

【実践報告】

教育実習Ⅳ（中・高）の報告

広島文教女子大学人間科学部

グローバルコミュニケーション学科 教授 笹原 豊造

0 はじめに

教育実習Ⅳは4年生で実施される本実習の準備段階として、主として観察実習で構成されている。現場教師による卓越した授業を観察することにより、「授業を観る眼」を養うだけでなく、今後の「学修への指針」を獲得することがねらいである。その内容は、事前指導、広島大学附属中・高等学校研究大会参加、事後指導、本実習に向けての各種ガイダンスで構成されている。

広島大学附属中・高等学校は、ここ3年間の研究テーマとして「知識基盤社会における生徒の育成」を掲げている。最終年度である本年度は「教科教育を基盤にした中等教育における実践」を副題とし、知識基盤社会において必要とされる力を精緻化し、その力を育成するための具体的方略を各教科で考究することとしている。

また、平成24年からの第3期SSH指定において「持続可能な社会を先導する人材の育成を図る教育課程の研究開発」を研究課題としている。

1 実習の具体的な内容

活動	指導内容
合同事前指導	実習に臨む心構え・実習校の紹介・研究大会の概要など（国語・英語合同）
教科別事前指導	教科別に教科の特性に即しての事前指導
観察実習	広島大学附属中・高等学校研究大会参加 11月28日（土）
教科別事後指導	教科別に観察した授業を材料に事後指導
各種ガイダンス	本実習に向けての心構え・本実習の準備など

2 研究大会の概要

（1）国語科

①教科主題（要項より抜粋）

国語科では、「総合的に考える力の育成」という研究主題を掲げて3年目となりました。総合的に考える力の育成のためには、テキストの表現、言語事項、背景を解釈し、自らの現実生活と結びつけて考える中で、自分のものの見方・考え方を構築していくことが必要です。そのためには、どのような授業過程、評価方法が考えられるかを提案します。公開授業は「形の諸相を探る―「形」（菊池寛）―【中3】、『大鏡』（「花山院の出家」他）【高Ⅱ】の二つ、研究発表は、これまでの2年間を振り返り、今年の公開授業も踏まえての集大成「総合的に考える力の育成とは」を行います。

②公開授業

- | | | | |
|------|-------|---------------------|------|
| 1 限目 | 三根 直美 | 形の諸相を探る―「形」(菊池寛) | 中学3年 |
| 2 限目 | 西原 利典 | 歴史をどう語り継ぐか―「場」と「語り」 | 高校Ⅱ年 |

③研究発表

- | | | |
|------|-------|-----------------|
| 3 限目 | 加藤 健吾 | 「総合的に考える力の育成とは」 |
|------|-------|-----------------|

(2) 英語科

①教科主題(要項より抜粋)

「知識基盤社会」、「グローバル化」といった状況を踏まえ、現行の学習指導要領には「思考力・判断力・表現力等の育成」を重視した指導をすることが盛り込まれています。今年度本校英語科は、「思考力・判断力・表現力の育成をめざして」を教科主題に掲げ、英語科における「思考力・判断力・表現力」とは何か、またその育成の具体的な方策は何かを研究しています。当日は高校Ⅰ年生の「コミュニケーション英語Ⅰ」、中学校3年生の「英語」の授業を行い、「思考力・判断力・表現力」の育成をめざした授業の一案を提案できたらと考えています。また、学校設定科目である「科学英語表現」での取り組みもご紹介いたします。

②公開授業

- | | | | |
|------|-------|-------------------------------------|------|
| 1 限目 | 富野 雅嗣 | コミュニケーション英語Ⅰにおける思考力・表現力の育成をめざして | 高校Ⅰ年 |
| 2 限目 | 山岡 大基 | 40人学級における学びの単位～一斉・協同・個別ハイブリッド型への挑戦～ | 中学3年 |

③研究発表

- | | | |
|------|--------|--------------------------------|
| 3 限目 | 山田 佳代子 | 課題研究を英語でアピール!～プレゼンテーション指導実施報告～ |
|------|--------|--------------------------------|

3 全体講演

① 演題

「知識基盤社会における学習環境の形成－学校の地域の連携（海外事例を中心に）－」

② 講師

立田 慶裕（神戸学院大学人文学部教授、国立教育政策研究所名誉所員）

③ 講演の骨子

本講演では、これまでに広島県で行った「知識基盤社会における生徒の育成－知識構成論の視点から－」や、「学習の本質」についての講演を振り返りながら、知識基盤社会の特質や知識の社会構成論、そしてOECDの理論的な研究成果である『学習の本質』（立田慶裕監訳、明石書店、2013年）についての簡単な説明を行った。

その後、現在、新たな学習指導要領の検討が進められる中で注目されている能動的な学習法としての「アクティブ・ラーニング」について、これまでのOECDの研究成果を踏まえて、日本における能動的学習に必要な要素として、学習の中心としての生徒の役割、生徒への学習への動機付け、共同学習法、能動的学習者としての教員の役割を検討した。

さらに、その具体的な展開として、前著（学習の本質）の事例研究とされる「イノベーティブな学習環境」の中から、日本の教育や教科別の展開事例に注目しながら、多様な機関との連携を図りながら優れた学習環境を形成しているとされる各国の事例を紹介した。